

白石区の歴史をひもとく

明治4年、旧仙台藩の白石城主、片倉小十郎の家臣が最月寒(現在の白石区中央付近)に移住しました(白石城は現在の宮城県白石市に位置)。白石区の「白石」という地名は開拓使の岩村判官が、冬の寒さに耐えながら開拓を進めた彼らの働きぶりに感心し、彼らの郷里の名をとって「白石村」と命名したのが由来です。

このような歴史を縁に、現在も白石区と白石市で交流が行われています。

白石村の誕生から、現在の白石区ができるまでの歴史をまとめたマンガ「白石の歴史ものがたり」を区地域振興課・総務企画課広聴係で配布しています。区ホームページでもご覧いただけます。

HP www.city.sapporo.jp/shiroishi/shokai/history/manga.html



個人会員で構成されています。同会は、「白石区ふるさとまつり」をはじめとして、まちづくりや青少年の健全育成、国際交流、友好都市との交流などさまざまな事業活動を行っています。

その一つとして、毎年同会が開催する「中学生の主張発表会」(本ページ左下部参照)では、白石市の弁論大会での優勝者が特別発表を行うほか、最優秀賞の受賞者が白石市を訪ねるなどの交流をしています。

関係団体の協力を得ながら、さまざまな行事を企画・運営しています(下段参照)。行事に参加することで、子どもたちに『白石がふるさと』という意識が芽生えてくるこゝとが期待されています。

中学生の主張発表会



毎年秋に白石区民センターで開催。区内中学校の生徒代表が、身近な体験や関心があることなど、自分自身の思いを大勢の前で発表します。今年度は10月20日(出)に開催します(白石5ページ参照)。

月寒川にぎわい川まつり



子どもたちが月寒河畔緑地で川遊びをしたり、川の生き物と触れ合ったりしながら身近な自然を体験します。今年度は7月21日に開催し、約800人の区民が参加。晴天の下、魚釣りやカヌーなどを楽しみました。

白石でっち奉公



区内10校の小中学生が、地域の施設や商店などで就労体験をします。子どもたちは、この体験を通して働くことの大切さや楽しさを学びます。昨年度は198の事業所が受け入れに協力し、約1,600人が参加しました。

